

健康で心豊かな学生生活

学修その他諸活動全てを含め、学生生活を豊かにし実りあるものにしていくためには、その基盤となる条件として、健康が大切であることは言うまでもありません。本学としても健康診断の実施等で健康管理への取組みを行います。皆さん一人ひとりにおいても、自らの健康管理について十分留意してください。

医務室は命江館1階にあり、ベッドや救急用品等を備えています。急に気分が悪くなったりした場合は、学生担当に申し出てください。

また、本学のカリキュラムの特徴の一つとして、実験・実習が多く設定されています。本学では「自然科学基礎実験」科目の授業にて「実験のための安全ガイダンス」を実施し、ガイダンスで配付する「実験のための安全マニュアル」の内容に沿って実験実施上の安全面での注意事項について説明を行います。実験での事故を防止するためにも、ガイダンス内容や安全マニュアルの内容をしっかりと熟知することが必要です。また、実際の実験・実習にあたっては、定められた指針や担当教員の指導・指示に従い、安全な実施を心がけてください。

(1) 定期健康診断

学校保健安全法に基づいて、毎年4月に定期健康診断を行いますので、全員が必ず受診してください。異常所見があった場合には通知しますので、早期治療を行ってください。

(本学近隣の医療機関…市立長浜病院、TEL: 0749-68-2300)

就職試験等で必要となる健康診断証明書は、本学において定期健康診断を受診しないと発行することができないため、十分に注意してください。

なお、4月に受診した健康診断の証明書は、5月初旬以降にしか発行できません。5月初旬以前に健康診断証明書が必要な者には、前年度のもののしか発行できないため、不都合な者は各自で医療機関へ受診し、発行してもらってください。

(2) 喫煙について

喫煙が健康に悪影響を及ぼすことは今や常識です。また、受動喫煙による健康被害も明白です。従って、本学ではそれらの被害を防止するために、屋外の一部許可エリアを除いては「全面禁煙」を実施しています。また20歳未満の喫煙は法律で禁止されています。

(3) 飲酒について

20歳未満の人の飲酒は法律で禁止されています。また、学内での飲酒は禁止しています。学外での飲酒については、イッキ飲み、イッキ飲ませ等、無理な飲酒による大学生の事故が後を絶ちません。飲酒が体に及ぼす影響などについての正しい知識を持って、飲酒に関する事故を防ぎましょう。

また、飲酒におけるハラスメント行為や事件、自動車・バイクの無謀運転(自転車についても違法行為)については、退学を含む懲戒処分の対象となります。絶対にしない・させないようにしましょう。

(4) 大麻等薬物乱用防止について

「大麻(マリファナ)」「覚せい剤」「MDMA(俗称エクスタシー)」「危険ドラッグ」などの違法薬物は、一度でも使用すると“薬物乱用”となり、犯罪として厳しく罰せられます。薬物の乱用は、単に違法であるだけでなく身体や精神にも大きなダメージを与え、自らの健康を蝕んだり、家族や友人等との人間関係をも破壊し、学生生活やその後の社会生活を取り返しのつかないものにします。皆さんは、薬物への正しい認識と強い自覚を持って、どんな場合でも、絶対に違法薬物の使用や所持をしないことを心がけてください。また万一、薬物による違法行為が明らかになった場合には、退学を含む重い懲戒処分が科されます。

(5) 人権侵害(ハラスメント)について

大学では、構成員であるすべての学生や教職員等が個人として尊重され、快適な教育・研究環境の中で生活できるように保障されなければなりません。そのため、本学では、人権侵害(ハラスメント)の防止や人権に関わる相談があった場合の速やかな対応を重視しています。

大学のハラスメントには、セクシャルハラスメント(性的嫌がらせ)、アカデミック・ハラスメント(教育・研究上の優位的な地位にある者が行う不適切な言動・指導・待遇)、パワー・ハラスメント等があります。ハラスメントでは、害を加えるつもりがない軽い気持ちでの行為や言動が、相手にとっては耐えられない苦痛となっている場合もあります。その点、誰もが加害者にも被害者にもなりうる問題です。大事なことは相手の気持ちを推し測る想像力と、自らの言動を客観的に見る謙虚さです。相手が嫌がっていると感じたらすぐにやめ、繰り返したり押し付けたりしないことです。立場の違いや受け止め方は様々ですが、人格的には全て対等な存在であり、互いに尊重しあうことを日頃から心がけることが重要です。

① 人権侵害(ハラスメント)に関する相談と対応について

本学では、人権侵害に関する相談及び申し立てに迅速に応じるため、人権に関する専門委員会を設置し、そのもとに人権相談員を配置しています。万一、自分自身が人権侵害を受けたり(疑いの場合も含む)、他者について見聞きしたりした場合は、遠慮なくご相談ください。相談したこと、申し立てをしたこと、申し立てに関する事実関係の協力をしたことを理由に、報復、妨害その他いかなる不利益を受けることはありません。

② 2016 年度の相談員

岩本昌子（准教授）（E-mail : har_soudanin1@nagahama-i-bio.ac.jp）
大島一彦（准教授）（E-mail : har_soudanin2@nagahama-i-bio.ac.jp）
駒井沙恵香（職員）（E-mail : har_soudanin3@nagahama-i-bio.ac.jp）

③ 相談方法

相談がある場合は、上記の相談員に直接あるいは電子メール、書面等で相談してください。みなさんの学籍番号、氏名、相談内容等の個人情報については、相談員によって厳重に保護・管理されます。安心して相談してください。

④ 相談内容への対応

相談があった場合、相談内容によっては人権に関する専門委員会が開催されます。委員会で人権侵害のおそれがあると判断すれば、関係者から事実関係を聞き取るなどの調査を経て、被害者救済を最優先に、問題解決に向けた対応策を決定し、改善を図ります。その結果については当事者に説明も行われます。

※リーフレットの「～豊かなキャンパスライフ創造のために～ キャンパス・ハラスメント相談のてびき」もぜひ参照してください。

（6）学生相談室（カウンセリングルーム）

学修、学生生活、就職活動等、個人の様々な悩みに対しては、担当教員や本学職員が適切に相談に応じますが、カウンセリングの専門家に相談できる「学生相談室（カウンセリングルーム）」を開室しています。

利用には予約を原則としますが、開室日に直接来室・相談をすることもできます。なお、開室日は、授業のある毎週月曜日・火曜日・水曜日の3日間です。

相談室のご案内

【開室日時】 毎週月曜日・火曜日 12:00～19:00（15:00～16:00 閉室）

【場 所】 命江館1階 カウンセリングルーム（「医務室」を通してカウンセリングルームへ）

【カウンセラー】 臨床心理士

【予約方法】 メール : soudanshitsu@ml.nagahama-i-bio.ac.jp

電話 : 0749-64-8100（内線 105 番）

事務室学生担当窓口

※相談内容の秘密は守られます。充実した学生生活を送ることを応援しています。どんなことでも気軽に相談してください。

（7）クレーム・コミッティ制度（2015 年度研究室配属生対象）

学生のみなさんの教育を受ける権利を保護し、教育・研究の指導の適正化を図ることを目的に、クレーム・コミッティ制度を設けております。研究室での指導教員の指導に関する悩みについては、以下の教員に相談してください。相談はどの教員でも構いません。

○2016 年度の相談教員

岩本昌子（バイオサイエンス学科、准教授）	E-mail : claim_soudanin1@nagahama-i-bio.ac.jp
永田 宏（コンピュータバイオサイエンス学科、教授）	E-mail : claim_soudanin2@nagahama-i-bio.ac.jp
山本博章（バイオサイエンス学科、教授）	E-mail : claim_soudanin3@nagahama-i-bio.ac.jp
野村慎太郎（アニマルバイオサイエンス学科、教授）	E-mail : claim_soudanin4@nagahama-i-bio.ac.jp
中村 卓（バイオサイエンス学科、准教授）	E-mail : claim_soudanin5@nagahama-i-bio.ac.jp
今村 綾（バイオサイエンス学科、講師）	E-mail : claim_soudanin6@nagahama-i-bio.ac.jp

（8）在学中の各種補償制度について

本学では、学生の皆さんの授業、課外活動等におけるけが等に対する補償について、(財)日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」「接触感染予防保険金支払特約（接触感染特約）」に全学生が加入します。また、学研災に関連するその他の保険としては、学生の皆さんに任意で加入いただく「通学中等傷害危険担保特約（通学特約）」「学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）」「学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）」があります。

①各保険の内容〈予定〉（詳細はパンフレット等で必ずご確認ください。）

学生教育研究災害傷害保険（学研災） ※全員加入…Aタイプ（死亡保険金最高 2000 万円 コース）

講義、実験、実習などの正課中、課外活動（クラブ活動）中、学校行事中、その他学内施設内での傷害事故を補償します。保険料は入学から4年の加入期間の場合が2,300円（編入学生は2年間で1,200円）となり、入学時に納入される諸費より徴収します。

補償範囲	死亡保険金	後遺障害	医療保険金	入院加算金
正課、学校行事中	2,000 万円	120 万円～ 3,000 万円	治療日数 1 日以上が対象 3 千円～30 万円	1 日につき 4,000 円
上記以外で学校施設内にいる時・学校施設外での大学に届け出た課外活動（クラブ活動）中	1,000 万円	60 万円～ 1,500 万円	治療日数 14 日以上が対象 3 万円～30 万円	1 日につき 4,000 円

接触感染予防保険金支払特約（接触感染特約） ※全員加入

学研災加入者を対象とした特約で、臨床実習の目的で使用される施設内で、感染症の病原体に予期せず接触し、その原因となる事故の発生の日からその日を含めて 180 日以内にその接触感染に対する感染症予防措置を受けた場合、15,000 円が支払われます。保険料は入学から 4 年の加入期間の場合が 70 円（編入学生は 2 年間で 40 円）で、入学時に納入される諸費より徴収します。

通学中等傷害危険担保特約（通学特約） ※任意加入

学研災加入者を対象とした特約で、通学中や学校施設間の移動などの事故を補償します。保険料は入学手続き時に配布のパンフレットに記載のとおりですが、詳細は窓口までお問い合わせください。

補償範囲	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金	入院加算金
通学中・学校施設等相互間の移動中	1,000 万円	60 万円～ 1,500 万円	治療日数 4 日以上が対象 6 千円～30 万円	1 日につき 4,000 円

学研災付帯賠償責任保険（学研賠） ※任意加入

学研災に加入していることを条件とする保険で、正課中、課外活動中、学校行事中、通学中に、他人に傷害を負わせたり、他人の財物を損壊させて法律上の損害賠償を負った場合に補償します。保険料は入学手続き時に配布のパンフレットに記載のとおりですが、詳細は窓口までお問い合わせください。

保険名称	対象範囲	支払限度額
学生教育研究賠償責任保険（学研賠）A コース	日本国内外での正課中、学校行事中または課外活動中およびその往復	対人賠償と対物賠償合わせて 1 事故につき 1 億円限度

学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総） ※任意加入

学研災に加入していることを条件とする保険で、学生生活全般を 24 時間補償します。

※正課中、学校行事中、学校が認めた課外活動（クラブ活動）中、学校施設内（寄宿舎を除く）の事故における死亡・後遺障害については、本保険の対象でなく、学研災の補償対象となります。

詳細は、入学手続き時に配布したパンフレットに記載のとおりで、保険会社への直接相談が必要となります。

②加入手続

保険名称 略称	加入の種別	加入手続
学研災・接触感染特約	全員加入	大学にて一括で加入手続きを行っています。各人による加入手続は不要です。
通学特約	任意加入	加入を希望する場合は、各人が事務室学生担当で加入手続きをしてください。
学研賠		
付帯学総	任意加入	入学前にパンフレットを入学手続書類とともにお送りしています。加入を希望する場合は、事務室学生担当でパンフレットを受け取り、添付の払込取扱票にて各自で手続きをしてください。

③保険金の請求について

保険が適用される事故が発生した場合は、速やかに学生担当へ報告してください。各保険により手続きの方法は異なりますが、原則として事故発生から 30 日以内に保険会社に通知する必要があります。

（９）国民年金の学生納付特例制度

日本国内に住むすべての人は、20 歳になった時から国民年金の被保険者となり、保険料の納付が義務づけられていますが、学生については、在学中の保険料の納付が猶予される「学生納付特例制度」が設けられています。学生納付特例制度は、所得の無い学生の方が、将来、年金を受け取ることができなくなることや、不慮の事故などで障害が残ってしまった場合に障害基礎年金を受け取ることができなくなることの防止するため、本人の申請により保険料の納付を猶

予する制度です。猶予を受けるには、住民登録をしている市区町村役場の国民年金担当窓口にて、毎年必要書類を提出して申請をする必要があります。詳しくは、社会保険庁のホームページなどで確認をしてください。

(10) A E D（自動体外式除細動器）について

A E Dとは、心臓がけいれんし機能を失った状態に陥った際に、心電図を自動的に解析し、必要な場合のみ電気ショックを与え、正常な働きに戻すための医療機器です。

2004 年より一般市民でも使用できるようになり、大学を始め公共施設等を中心に全国的に普及が進んでいます。最近では、一般の方がA E Dを使用して救命処置をした事例も増えてきています。A E Dは、操作方法を音声でガイドしてくれるため、簡単に使用できるようになっています。救急車が到着する前に、傷病者の近くに居合わせた人がA E Dを使用して、電気ショックをできるだけ早く行うことが重要です。いつ皆さんの近くで起こってもすぐ対応できるように、大学では、毎年講習会も実施しています。

● 設置場所：○命江館 1 F・中央監視室前 ○命岳館 1 F・南出入口 ○命北館 1 F・出入口